

## 「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠

内田 吉哉

はじめに

本稿は、「豊臣期大坂図屏風」に描かれた人物を中心に、性別・生業・服装、とりわけ文様などの意匠についての調査を行い、そこで得られた知見をもとに考察を加えることを目的とするものである。

「豊臣期大坂図屏風」を含め、都市図屏風は街区や建築物などの都市の姿を描くだけでなく、都市に生活する人物をも活き活きと描くものである。筆者が「豊臣期大坂図屏風」の研究に携わる中で実感したことの一つに、こうした屏風絵というのは、おそらく床の間に飾って姿勢を正して鑑賞するような絵ではあるまい、ということがある。こうした都市図屏風は画面に顔を近づけ、時には描かれた場面を指さしながら見るようなものではないか。

洛中洛外図屏風に関する初見史料として『実隆公記』永正三年（一五〇六）十二月二十二日条の記録がある<sup>1)</sup>。

『実隆公記』永正三年十二月二十二日条

甘露寺中納言来、越前朝倉屏風新調、一双画京中、土佐刑部大輔新図、尤珍重之物也、一見有興

朝倉貞景が新調した屏風——土佐光信の筆になる洛中洛外図屏風なのだが、三条西実隆はこの「新図」の感想を「尤も珍重の物なり、一見興有り」と記す。実隆がこれほどに「珍重」としたのは京中の様子を描く新図、洛中洛外図屏風の目新しさによるものもあるだろうが、「一見興有り」と記すその様子からは、細密に描き込まれた屏風絵を興味津々に覗きこんでいるような雰囲気を感じられる。

時代は下るが、井原西鶴の『日本永代蔵』巻二にも洛中洛外図屏風についてふれたくだりがある<sup>2)</sup>。

娘おとなしく成て、頓て嫁入屏風を拵とらせけるに、洛中尽を見たらば、見ぬ所を歩行たがるべし。

嫁に出す娘の嫁入り道具として詠える屏風に、もし洛中洛外図などを持たせてしまったら、画中に描かれる都の賑やかな様子に影響されて、物見遊山に浮かれ歩くようなことになってしまうかもしれない、というのである。洛中洛外図屏風がどのように鑑賞されていたか、がよくわかる一節である。都会の華やかさが事細かく描かれた洛中洛外図屏風は、細部まで眺め尽くしてこそ、その楽しさを心底味わえるものなのであろう。

ところで、こうした都市図屏風は極めて精密に描かれているように見えても、その描き込みぶりは写真や地図のような「意味の有無に関わらず、あるがままを記録する」という性質のものではない。構図の決定においては注文主の意向が大きく作用するところであるし、細部の描写においては、絵師あるいは工房の個性が強くあらわれる部分であるといえる。

そこで本稿では、人物とその服装や、文様などの衣装といった細部について調査し、結果を検討することによって「豊臣期大坂図屏風」の絵画的特徴についての知見を述べてみたい。

## 一 人物の配置と傾向

「豊臣期大坂図屏風」は現在、オーストリア・グラーツ市にあるエッゲンベルク城（世界遺産）の壁に貼り付けられている。そのため屏風の形は留めていないが、元の形を推定し、復元すると八曲一隻が残されていることになる。屏風は、本来が一双で用いられるものであることを考えると、「豊臣期大坂図屏風」にも、元は対となる「もう一隻」が存在したであろうことが推測される。

「豊臣期大坂図屏風」に描かれるのは、慶長年間（一五九六―一六一五）の大坂城とその城下、そして大坂周辺の名所である。八曲の画面を通して、下部には淀川が流れ、北からの構図で第一扇―第二扇には船場の賑わい、東横堀川を挟んで第三扇には上町、第四扇から第七扇にかけて大坂城を描く。第八扇には宇治平等院と石清水八幡宮、そして淀川の対岸に天王山と宝積寺といった具合に、京坂

間の名所を描く。

第一扇から第五扇にかけての右上部には、堺の町と、そこへ向かう荒和大祓神事の行列、住吉大社、四天王寺を描く。この場面では祭行列の下部に大坂湾がわずかにのぞき、この部分だけ西からの構図で描かれていることがわかる。

大坂、しかも豊臣期の様子を描く作例は、現在までに「大坂城図屏風」（大阪城天守閣蔵）、「京・大坂図屏風」（大阪歴史博物館蔵）、「大坂冬の陣図屏風」（東京国立博物館蔵）、「大坂夏の陣図屏風」（大阪城天守閣蔵）の四例しか確認されていない。「豊臣期大坂図屏風」でようやく五例目となり、類例は極めて少ない。

しかし、制作を手がけた絵師あるいは工房の系譜をたどると、「洛中洛外図屏風」を中心に類例作品が存在することが判明している。同じ絵師あるいは工房で制作されたとみられる作例は、林原美術館本「洛中洛外図屏風」、島根県立美術館本「洛中洛外図屏風」など、合計一八点にのぼる。この系統の作例の特徴として、狩野博幸氏は「額が広く造作が中央に寄った顔をもち、ふつくら円味をおびた人物の描写」を指摘する<sup>3)</sup>。

「豊臣期大坂図屏風」に描かれる人物は、四九三人である。これは都市図屏風としては、さして多い数字ではない。「洛中洛外図屏風」の中には数千人が描かれる作例もしばしば見られる。「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠を調査するうえで、各々に番号をつけ、各扇ごとにまとめたものが、本稿末の表「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠」である。調査にあたっては、各人物がどの扇に描かれるか、また「男性・女性・子供」の区別、描かれる「身分・職業・風俗」、

服装の意匠と文様、そして持ち物についての項目を設けた。

各扇ごとの人数は、第一扇が六六人、第二扇が八四人、第三扇が九七人、第四扇が八三人、第五扇が三九人、第六扇が四七人、第七扇が三三人、第八扇が四四人である。第二扇と第三扇の人数が多いが、これは、この両扇に荒和大祓神事の中心部分があることと、船場・上町の賑わいが位置することによる。逆に人数が少ないのは第五扇から第七扇までであるが、これは大坂城本丸と二の丸の位置にあたる。特に本丸は天守と千畳敷御殿を描くことで、人物が少なくなっていると言える。

「豊臣期大坂図屏風」の景観を、場面別に、①堺・住吉・四天王寺、②船場・上町、③大坂城、④淀川・八軒家、⑤京坂間と分けてみると、この傾向はさらに顕著になる。それぞれの場面の人数は、①堺・住吉・四天王寺が一六九人、②船場・上町が一〇四人、③大坂城が九五五、④淀川・八軒家が八六八、⑤京坂間が三九人である。数字の上で堺・住吉・四天王寺の場面に描かれる人数が、圧倒的に多いことがわかる。大坂城は、本丸・二の丸・馬出曲輪とあわせてほぼ四扇分、屏風の半ばほどを占めながらも、そこに描かれる人物は屏風全体の人数の五分の一ほどでしかない。

こうした人数の偏りは、豊臣期の大坂を描く上で主題となる風物がどのように捉えられていたかを確認する材料となるだろう。つまり、住吉大社の荒和大祓神事が、大坂の代表的なハレの行事として捉えられていた、ということである。こうした都市図屏風では、画中に何らかの群衆を描く例がしばしば見られる。「洛中洛外図屏風」では祇園祭がそれに当たる。京の祇園祭に相当する群衆の熱気を、

豊臣期の大坂を主題とする絵画に求めようとした場合に、住吉大社の荒和大祓神事がその対象となると考えられる。

現在の感覚からすれば、大阪を最も賑わせる祭といえば、天神祭のイメージが強い。世間で言われる、いわゆる「日本三大祭」も、京都の祇園祭、東京の神田祭、そして大阪の天神祭である。だが天神祭の船渡御・陸渡御が大坂の祭を代表する一大ページェントとなつたのは、一七世紀末からのことである。それまでの天満天神の祭礼の様子は、わりあい慎ましやかなものであつたらしい。

天神祭は、淀川に神鉾を流し、流れ着いた場所をその年の御旅所として巡幸、神事をとりおこなっていた。この鉾流神事は、寛永・正保（一六二四―一六四七）のころに京町堀川流末の地、後の雑喉場に御旅所が固定され、実際に神鉾を流すことは廃止されたとい<sup>4</sup>う。現在の天神祭で見られる鉾流神事は、昭和五年（一九三〇）に復活したものである。

この、江戸時代から大正時代にかけての鉾流神事の中止が、天神祭の規模拡大につながった。慶安二年（一六四九）には、祭の際に惣町中より出る「ねり物」が順番を争い、混雑をきわめるので順番をあらかじめ決めさせたとい<sup>5</sup>うことが、『撰陽奇観』に出ている。寛永・正保のころに天神祭の御旅所が固定され、そのことによつて祭の準備にかけられる期間が延び、天神祭を盛大なものにしたのである。

対して、住吉大社の荒和大祓神事は、慶長頃にはすでに盛大であつたことが、「住吉祭礼図屏風」（堺市博物館蔵）に描かれる。「住吉祭礼図屏風」は、元和四年（一六一八）の徳川秀忠による住吉社

修復にともなう、住吉・堺の復興の気運の中で制作されたものとみられる<sup>(6)</sup>。長谷洋一氏によると、景観年代の下限は慶長二〇年(一六一五)から元和六年(一六二〇)頃、堺が大坂夏の陣で焼け野原になった時期にあたり、そのためかつての隆盛を誇った時期の様子に加えて江戸時代以降の要素も含み、折衷的な内容になっているとされる<sup>(7)</sup>。この「住吉祭礼図屏風」は、六曲一双の画面を横断する荒和大祓神事の行列を描く。祭行列の盛大さに主眼を置いた作例である。大坂という都市の賑わいを、「祭」というモチーフで描き出そうとすると、豊臣期では住吉大社の荒和大祓神事がその対象となり、そのことが「豊臣期大坂図屏風」の人物の配置にもあらわれていると見てよいだろう。

## 二 人物服装と衣装

本章では、「豊臣期大坂図屏風」の人物を、「身分・職業・風俗」と服装の意匠、文様によって分類・考察してみる。

総人数四九三人のうち、男性が三〇九人、女性は一三四人、子供が五〇人となる。これを分類する上で、服装からは男女の区別が明確でないものもある。特に笠をかぶり、船に乗るなどして全身の立ち姿が描かれない人物では、その傾向が顕著である。そうしたケースについては、頭髮の生え際の描写によって性別を判断した。「豊臣期大坂図屏風」では、女性は垂髪か簡便にまとめた束ね髪であり、被衣をかぶるものも多い。頭髮の生え際の描写に注目すると、男性は髻を結うために髪をひつつめたように描くのに対して、女性は側

頭部の髪が自然に垂れるように描かれている(図1、2)。

人物の服装については、施されている意匠を六つの形式に分類した。「洛中洛外図屏風」や風俗画に描かれる服飾の意匠形式について、末久真理子氏の論考がある<sup>(8)</sup>。末久氏は、絵画に見る服飾意匠の特徴を抽出し、六つの意匠形式に分類して考察を加え、意匠の表現にみる時代的变化について論じた。末久氏が調査対象とした「洛中洛外図屏風」は、近年発見され、狩野博幸氏によって紹介された、新出の「洛中洛外図屏風」(以下「新出本」と呼称する)と、岐阜市立歴史博物館所蔵「洛中洛外図屏風」(以下「岐阜歴博本」と呼称する)である<sup>(9)</sup>。これらの「洛中洛外図屏風」は「豊臣期大坂図屏風」と同じ絵師あるいは工房によって制作されたと見られる作例である。本稿では、末久氏の論考を参考にしつつ、「豊臣期大坂図屏風」での実情に合わせてカテゴリを一部変更して分類を試みた。六つの意匠



図1 「豊臣期大坂図屏風」  
(オーストリア・エッゲンベルク城蔵、部分)



図2 「豊臣期大坂図屏風」(部分)



カテゴリーは次のとおりである。

(1) 無地…まったく文様が施されていない、単色で表現されたものである。末久氏の論考では、この意匠分類は設定されていない。しかし「豊臣期大坂図屏風」にみる服飾の意匠形式では、無地単色に描かれる服飾が多くみられるため、これを一つのカテゴリーとする必要があった。

(2) 肩裾…小袖の肩部分と裾部分に染色・文様を施したものである。室町時代にはすでにみられ、比較的古様な形式といえる。

(3) 縞・段…水平方向、または垂直方向の段・筋あるいは縞によって衣服全体に意匠が施されたものをこの分類とした。

(4) 文様散点…小柄あるいは中ぐらいの文様を衣服に散点させて描くものをこの分類とした。この分類に入るものは可能な限り文様の種類を特定し、分類表に記載した。

(5) 大柄文様…衣服全体にほぼ一つの大きな文様を施したものをこの分類とした。この分類に入るものも、可能な限り文様の種類を特定して分類表に記載した。

(6) 地文様…衣服全体に細かな文様を充填させ、地文様のように表現するものをこの分類とした。

なお人物の衣服は小袖のほか、羽織や肩衣など上半身に重ねて着用するものもあり、また袴のように下半身のみに着用されるものもある。これらの衣服にも小袖とは別に意匠が施されているため、それぞれ別項目を設けて意匠分類を行った。その結果、「豊臣期大坂図屏風」に描かれる人物は四九三人であるが、衣服の意匠分類の数は、小袖など胴部に着用する衣服、羽織や肩衣など上半身に着用す

る衣服、袴など下半身に着用する衣服のそれぞれを合計して六七二件となった。以下、これらの分類に基づいて、「豊臣期大坂図屏風」に描かれた衣服の意匠を検討していく。

まず(1) 無地のものについては、計二三八点を数えた。これは本稿で設定した各意匠分類の中では最も多いものである。彩色は様ざまであるが、本稿では調査対象としていない。というのも、「豊臣期大坂図屏風」は一七世紀中葉に制作され、オランダ東インド会社を通じてヨーロッパへ輸出、エッゲンベルク家の所有となって約三五〇年が経過している。その後二〇〇〇年から二〇〇四年にかけて修復が行われたが、修復の際の資料写真を閲覧させていただいたところ、中には顔料が退色して元の色がほとんど残されていない例も見られた。そのため、現在の状況から制作当時の色彩をすべて正確に判別することが難しいと考えられる。

(2) 肩裾形式の意匠を施した例は、計八四点みられた。本稿で設定した意匠分類の中では、比較的少ないものになる。末久氏によると、風俗画に見る肩裾形式の意匠の大半は、肩と裾の区画線の中に文様が収められて配置されるが、新出本「洛中洛外図屏風」では、肩裾の区画線をこえて文様が表出している意匠構成が見られるという。末久氏は、こうした区画線をこえた文様の意匠構成は、実際的小袖では寛永期(一六二四～一六四五)頃に見られるようになっており、新出本「洛中洛外図屏風」の表現はその萌芽的な小袖意匠なのではないかとしている。これに相当する意匠が、「豊臣期大坂図屏風」でも三例みられた(図3)。「豊臣期大坂図屏風」の制作年代は寛永以降と考えられるため、ここでも制作年代に近い意匠が描か



図3 「豊臣期大坂図屏風」(部分)



図4 「豊臣期大坂図屏風」(部分)

れたとみることもできよう。なお、「豊臣期大坂図屏風」に見られる肩裾形式の意匠では、文様を配置しない、色分けのみの肩裾意匠が多い。これは(1)の無地という分類項目の設定が必要だったこととあわせて考えると、「豊臣期大坂図屏風」に見られる衣服の意匠は比較的簡略化された表現が多く用いられていると見るべきであろう。

(3)の縞・段構成の意匠は、計六〇点が見られた。末久氏によると、新出本「洛中洛外図屏風」では、斜線で七色に染め分けて区画した段構成の中に花弁文・輪車文などを充填させる例が見られるという。末久氏は、こうした意匠構成が、寛永期の制作と見られる「風俗図」(彦根屏風、彦根城博物館所蔵)などにもみられることから、こうした意匠もまた、寛永期における段表現の萌芽的要素が描かれているのではないかとしている。「豊臣期大坂図屏風」に見られる事例では、複数の色を使い分けた段構成はあるものの、段の



図5 「豊臣期大坂図屏風」(部分)



図6 「豊臣期大坂図屏風」(部分)

中にさらに文様を充填させる例は見られず、比較的簡素な表現となっている(図4)。

(4)の文様散点形式については、一四九例が見られた。この意匠形式では可能な限り文様の種類を特定したが、文様の種類は四八種類を数えた。末久氏によると、この意匠形式では寛永期あるいは寛文期に入る頃から、文様が次第に大型化する傾向が確認されるという。これに該当する事例として、「豊臣期大坂図屏風」では、背中に大きな瓢箪文を一つ描くもの(図5)や、小袖の身幅一杯の下り藤文を描くものが見られた(図6)。なお「豊臣期大坂図屏風」では、羽織の背に大きく一つの文様を描くものが見られるが、これも文様散点形式として数えた。羽織の背に一つだけ文様を配した意匠は、特に祭行列を見物する人物の中に多くみられる。

(5)の大柄文様の意匠は、一一例が見られた。これは、本稿で





図7 「豊臣期大坂図屏風」(部分)



図8 「豊臣期大坂図屏風」(部分)

設定した六つの意匠分類の中では最も少ないものである。末久氏の論考でも、新出本「洛中洛外図屏風」の中で(4)の文様散点形式が一九〇例見出されたのに対して、大柄文様は七例のみとなり、さほど多くみられないとのことである。「豊臣期大坂図屏風」で見られるこの意匠形式の文様は、枝垂れ柳が圧倒的に多く、一一例のうち五例までがこの文様である(図7)。なお、この他に衣服ではないが、人物が持つ荷物や傘にも大柄文様が見られる(図8、9)。末久氏によると、この意匠形式は、元和年間(一六一五～一六二四)頃の景観を描く絵画にはさほど見られず、寛永年間以降に急速に増加することである。

(6)の地文様形式の意匠は、計一二九例が見られた。末久氏によると、地文様の特徴である小紋の文様は、おおよそ室町時代半ば頃までには、すでに染織の基盤が整備されてきたと考えられ、江戸



図9 「豊臣期大坂図屏風」(部分)



図10 「豊臣期大坂図屏風」(部分)

時代に入ると武家の中でも肩衣袴においては小紋が装飾の主調となり、その後は一般の市井にも急速に拡大していったという。「豊臣期大坂図屏風」に見られるこの意匠形式の事例は、細かい粒状文を一面に描くものと(図10)、連続した円弧にまばらな粒状文を散らして芒文様の小紋のように描くものが比較的多くみられる(図11)。

### 三 「豊臣期大坂図屏風」に描かれる芸能者の事例

「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠を個別に調査していく中で、特徴的な職業・風俗を描くものを二例取り上げてみたい。

一つは、第六扇に描かれる説経語りである(図12)。小袖の上に十徳を着て、傘をさして手には数珠を持つ。十徳には紐結鷹羽文が配されている。よく似た人物が、新出本「洛中洛外図屏風」にも見



図11 「豊臣期大坂図屏風」(部分)



図12 「豊臣期大坂図屏風」(部分)

られる(図13)。ただし衣服の文様は大柄な笹文様である。

この鷹羽文であるが、芸能者の中では鉢叩をあらわすものとして認識されていたようである。寛文二年(一六六二)に刊行された中川喜雲の『案内者』第六巻に鉢叩に関する記事がある<sup>⑩</sup>。

四条坊門西洞院のあひだに鉢た、きの寺あり、鉢た、きは常に茶釜をけづりていとなみとす。山科・はたえだにもその流れありて、衣の紋に鷹羽と千鳥と二派ありとかや。(後略)

澤田和人氏によると、林原美術館本「洛中洛外図屏風」に鷹羽文をつけた鉢叩が描かれ、これが絵画資料に見る鉢叩の鷹羽文の初見とのことである<sup>⑪</sup>。林原美術館本「洛中洛外図屏風」の鉢叩の鷹羽文には、羽が二枚交差した形の違鷹羽文と、羽の端を紐で結び連ねた紐結鷹羽文の二種類が見られるという。

さらに澤田氏によれば、鷹羽文はさらに先行した作例で別の芸能

者にも見出せるという。それは、文禄三年(一五九四)に豊臣秀吉が吉野で催した花見を描いた、細見美術館蔵の「吉野花見図屏風」と、元和年間初年の制作と見られる高津古文化会館蔵「東山遊楽図屏風」に描かれた「ささら説教」である。ことに「東山遊楽図屏風」のささら説教は紐結鷹羽文である(図14)。

ところが、澤田氏の論考によると鷹羽文とささら説教の結びつきは途中でとだえ、服飾の観点からすれば、元和年間末年から寛永年間初年頃より前に、ささら説教の一部の集団が鉢叩へと化していった可能性が見出せるとされる。

そうすると、一七世紀中葉の制作とみられる「豊臣期大坂図屏風」の説経語りや紐結鷹羽文をつけているのは、制作年代に比して古様な意匠を描いたものということができよう。

もう一つは、第一扇に描かれる八丁鉦である(図15)。「豊臣期大



図13 新出本「洛中洛外図屏風」(部分)



図14 高津古文化会館蔵「東山遊楽図屏風」(部分)



坂図屏風」では、八つの鉦を打ち鳴らす少年と、その周囲に四人が鉦・太鼓を打つ姿を描く。

八丁鉦については山路興造氏の論考があり、それによると八丁鉦は春の季節の大道芸として認識されていたとする。山路氏によると、延宝三年（一六七五）刊の『談林十百韻』に、

八丁がねもさえかえるそら

蕤なら一枚ほどの雪消えて

の句がある。また延宝七年（一六七九）の『大句数』にも、

春日山春風めくる八丁鉦

むらさき染めの脇あけをきて

の句があり、これらの句の季語が春であることから、八丁鉦が春の風物詩とされていたことがわかるという。

「豊臣期大坂図屏風」の八丁鉦は、少年を中心にして八つの鉦が



図15 「豊臣期大坂図屏風」(部分)

「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠（内田）

円状に並んでいる。この鉦の描写は、どのような状態をあらわしているのであろうか。山路氏は八丁鉦の画証について、さまざまな絵画資料を提示しており、その中でも『人倫訓蒙図彙』に詳細な解説が記されていることを紹介している。『人倫訓蒙図彙』は、元禄三年（一六九〇）に刊行された風俗事典で、様々な職業・身分やそれに用いられる器物を描いた図を載せ、簡略な説明を加えた本である。『人倫訓蒙図彙』では、八丁鉦について、

八打鐘 是も哥念仏のたぐひなり、上古には念仏申て一心不乱に踊けるを、いつの比にか只すちに廻はじめしより、口に唱る念仏をも略し、無二無三に巡るを手柄にする也、みるにくるしき世わたりなり、

と記される。<sup>13</sup>つまり首にかけた鉦を身体で大きく回しつつ、撞木で打ち分けるというのである。これを踏まえて「豊臣期大坂図屏風」の八丁鉦を見ると、八つの鉦の配置は、まさに演者の首を中心

## 小結

本稿は、「豊臣期大坂図屏風」に描かれる人物を分類し、その調査成果に基づいていくつかの考察を加えたものである。「豊臣期大坂図屏風」も含め、「洛中洛外図屏風」などの都市図屏風の研究は、現在、デジタルアーカイブの制作が大きな流れの一つとなっている。本稿に掲載した、「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠の分類表も、「豊臣期大坂図屏風」デジタルアーカイブ制作の取り組みの中で行った

調査によるものである。

都市図屏風に描かれる人物の意匠や風俗、生業等を網羅した研究には、これまでに石田尚豊氏らが監修した『洛中洛外図大観』(小学館、一九八七年)があり、高価で非常に大部な書籍でありながら、二〇〇一年には新装改訂版が刊行されるほどの需要の高さを見せている。新装改訂版にはさらにCD-ROM版もあり、都市図屏風デジタルアーカイブの草分け的存在となっている。二〇〇九年には、島根県立美術館本「洛中洛外図屏風」をデジタル化した、奥田俊六氏・関口敦仁氏監修『デジタル洛中洛外図屏風 島根県美本―パソコンで旅する江戸時代の京都』(淡交社、二〇〇九年)が刊行された。これは「洛中洛外図屏風」を自在に閲覧できるだけでなく、建物や人物を検索できるシステムも備えたものである。

こうした都市図屏風のデジタルアーカイブ化の流れは、研究者に対して、屏風に描かれる場面や人物の詳細な研究の必要性をもたらしている。同時に、こうした研究では、扱う資料は膨大な量となり、また歴史的・美術史的に得た知見を発信するためにデジタル化の技術が必要となり、情報工学分野との連携も求められている。今後の研究においては、いかに文理融合型の研究体制を築くか、も一つの要点となるのではないだろうか。

※図版13は、狩野博幸『新発見 洛中洛外図屏風』(青幻社、二〇

〇七年)より転載した。

※図版14は、狩野博幸編著『近世風俗画 1 遊び』(淡交社、一九九一年)より転載した。

## 注

- (1) 『実隆公記』(太洋社、一九三五年)
- (2) 新編西鶴全集編集委員会編『新編西鶴全集』第三巻・本文編(勉誠出版、二〇〇三年) 所収
- (3) 京都国立博物館編『洛中洛外図 都の形象―洛中洛外の世界』(淡交社、一九九七年)
- (4) 『大阪天満宮 夏大祭天神祭と秋大祭流鏝馬式史料 慶応元年〜明治二十年』(なにわ・大阪文化遺産学叢書一四、関西大学なにわ大阪文化遺産学研究センター、二〇一〇年三月)
- (5) 船越政一郎編『浪速叢書』(浪速叢書刊行会、一九二六年) 所収
- (6) 大阪市立美術館編『特別展 住吉さん 住吉大社一八〇〇年の歴史と美術』(大阪市立美術館、二〇一〇年) 解説
- (7) 長谷洋一「豊臣期大坂図屏風」に描かれた堺(関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター編『国際シンポジウム 新発見「豊臣期大坂図屏風」の魅力―オーストリア・グラーツの古城と日本―』新発見「豊臣期大坂図屏風」を読む(関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター、二〇〇九年) 所収)
- (8) 小出(末久)真理子「洛中洛外図にみる小袖意匠形式―新出「洛中洛外図」および岐阜市立博物館所蔵「洛中洛外図」を中心に」(『デザイン学研究特集号』第一九巻四号、二〇一二年九月)
- (9) 狩野博幸『新発見 洛中洛外図屏風』(青幻社、二〇〇七年)
- (10) 森銃三・北川博邦監修『続日本随筆大成』別巻「民間風俗年中行事 上」(吉川弘文館、一九八三年)
- (11) 澤田和人「鉢叩の装いと鉦叩の装い 服飾の記号性と造形」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第109集、二〇〇四年三月)
- (12) 山路興造『近世芸能の胎動』(八木書店、二〇一〇年)
- (13) 『人倫訓蒙図彙』(朝倉治彦校注、平凡社、二〇一二年)

(関西大学大阪都市遺産研究センター 特別任用研究員)  
本研究は、平成二十四年度関西大学若手研究者育成経費(個人研究)において、研究課題『「豊臣期大坂図屏風」の景観に関する研究』として研究費を受け、その成果を公表するものである。

表 「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠

番号	扇	男・女・子供	身分・職業・風俗	服装	意匠分類：小袖	意匠分類：上衣	意匠分類：袴	文様	持物	場面
1		男	祭見物	小袖	無地				膳	堺・住吉・天王寺
2		女	水汲み	小袖	地文様					堺・住吉・天王寺
3		男	町人	小袖	肩裾					堺・住吉・天王寺
4		女	水汲み	小袖	文様散点			蛇の目	桶	堺・住吉・天王寺
5		男	水汲み	小袖	肩裾				桶・天秤棒	堺・住吉・天王寺
6		女	祭見物	小袖	祭見物					堺・住吉・天王寺
7		男	祭見物	小袖	地文様					堺・住吉・天王寺
8		女	祭見物	小袖	縞・段					堺・住吉・天王寺
9		女	祭見物	小袖	地文様				扇子	堺・住吉・天王寺
10		女	祭見物	小袖	文様散点			四つ割菱	扇子	堺・住吉・天王寺
11		男	社僧	小袖・袈裟	無地				笠・盆	堺・住吉・天王寺
12		男	祭行列	小袖	肩裾					堺・住吉・天王寺
13		男	祭行列	小袖	肩裾					堺・住吉・天王寺
14		男	船乗り	小袖	無地					堺・住吉・天王寺
15		女	船客	小袖	地文様				傘	堺・住吉・天王寺
16		女	船客	小袖	地文様				傘	堺・住吉・天王寺
17		女	船客	小袖	地文様					堺・住吉・天王寺
18	1	女	船客	小袖・披衣	地文様	無地				堺・住吉・天王寺
19		子供	船客	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
20		男	船客	小袖	肩裾				笠	堺・住吉・天王寺
21		女	船客	小袖	地文様					堺・住吉・天王寺
22		子供	船客	小袖	無地				荷物	堺・住吉・天王寺
23		男	船客	小袖	肩裾				笠・刀	堺・住吉・天王寺
24		男	武家	小袖・袖なし羽織	無地					堺・住吉・天王寺
25		男	船乗り	小袖・袖なし羽織	地文様					堺・住吉・天王寺
26		男	船客	小袖	無地					堺・住吉・天王寺
27		子供	船客	小袖	肩裾				笠	堺・住吉・天王寺
28		男	船客	羽織・袴	文様散点	文様散点	無地		荷物	堺・住吉・天王寺
29		男	船客	小袖	無地					堺・住吉・天王寺
30		女	参詣	小袖	地文様					船場・上町
31		女	参詣	小袖	肩裾					船場・上町
32		女	参詣	小袖・羽織	文様散点	地文様				船場・上町
33		女	町人	小袖	文様散点					船場・上町
34		女	町人	小袖	文様散点					船場・上町



35	子供	町人	小袖・羽織・袴	肩裾	無地			船場・上町
36	男	町人	小袖	無地				船場・上町
37	男	神職	白張	無地				船場・上町
38	男	町人	小袖	文様散点		星梅鉢	荷物・島台 笠	船場・上町
39	男	町人	小袖	文様散点		井桁・梅鉢		船場・上町
40	男	神職	白張	無地				船場・上町
41	女	町人	小袖	肩裾				船場・上町
42	女	町人	小袖・被衣	無地				船場・上町
43	男	念仏踊	小袖・袖なし羽織	無地			笠・鉦・撞木 八打鉦	船場・上町
44	子供	八丁鉦	法被・袴	肩裾				船場・上町
45	男	念仏踊	小袖・袖なし羽織・直綴	無地	無地	楓	笠・鉦・撞木	船場・上町
46	女	町人	小袖	無地				船場・上町
47	子供	町人	小袖	無地				船場・上町
48	女	町人	小袖	縞・段				船場・上町
49	男	念仏踊	小袖・袖なし羽織	肩裾			笠・太鼓	船場・上町
50	男	念仏踊	小袖・袖なし羽織	無地	無地		笠・撞木	船場・上町
51	男	勧進僧	小袖・袖なし羽織	地文様	無地		笠・柄杓	船場・上町
52	男	町人	小袖	地文様				船場・上町
53	女	町人	小袖・袖なし羽織	肩裾				船場・上町
54	女	町人	小袖	文様散点		亀甲繫		船場・上町
55	男	武家	羽織・袴	文様散点				船場・上町
56	男	町人	小袖	地文様	肩裾			船場・上町
57	男	町人	小袖・袖なし羽織・袴	地文様	肩裾			船場・上町
58	子供	町人	小袖	文様散点	地文様			船場・上町
59	女	町人	小袖	地文様		輪造	笠・刀 荷物・刀 洗濯物 鹽・洗濯物	船場・上町
60	男	町人	裸	裸				船場・上町
61	男	船乗り	小袖	無地				船場・上町
62	女	船客	小袖	無地				淀川・八軒家
63	女	船客	小袖	地文様				淀川・八軒家
64	女	船客	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
65	女	船乗り	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
66	女	船乗り	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
67	男	祭行列	小袖・法被・袴	無地	無地		刀	堤川・天王寺
68	男	祭行列	小袖	文様散点		三つ楓		堤川・天王寺
69	男	祭行列	小袖・法被	文様散点		五枚笹	大団扇・太刀 荷物	堤川・天王寺
70	男	新	小袖	文様散点		五枚笹	神馬・笠	堤川・天王寺
71	男	祭行列	法被・袴	文様散点	無地			堤川・天王寺

72		男	祭行列	小袖	肩裾	文様散点		神馬・太刀	堺・住吉・天王寺
73		男	祭行列	小袖・法被	無地	文様散点	五枚笹	神馬・笠	堺・住吉・天王寺
74		男	祭行列	小袖・法被・袴	無地	文様散点 肩裾	五枚笹	太刀・笠	堺・住吉・天王寺
75		男	祭行列	小袖	無地	無地		太刀・笠・柄杓	堺・住吉・天王寺
76		女	祭行列	小袖	縞・段	無地		笠・中啓・膳・瓢箪	堺・住吉・天王寺
77		男	祭行列	小袖・法被・袴	無地	文様散点	五枚笹	太刀・笠・幟	堺・住吉・天王寺
78		男	祭行列	小袖	無地	無地		太鼓・刀	堺・住吉・天王寺
79		男	祭行列	小袖	地文様	文様散点	亀甲繫	太鼓・刀	堺・住吉・天王寺
80		男	祭行列	小袖・法被・袴	無地	無地		太鼓	堺・住吉・天王寺
81		男	獅子舞	小袖・袴	無地	無地			堺・住吉・天王寺
82		男	獅子舞	小袖・袴	無地	無地		笠	堺・住吉・天王寺
83		女	住吉踊	小袖	肩裾	肩裾		笠	堺・住吉・天王寺
84		男	住吉踊	小袖	肩裾	肩裾			堺・住吉・天王寺
85		男	神輿	小袖	無地	無地			堺・住吉・天王寺
86		男	神輿	小袖	無地	無地			堺・住吉・天王寺
87		男	神輿	小袖	文様散点	文様散点	輪造		堺・住吉・天王寺
88		男	神輿	小袖・法被	地文様	肩裾			堺・住吉・天王寺
89		男	神輿	小袖	無地	無地			堺・住吉・天王寺
90	2	男	神輿	小袖	無地	無地			堺・住吉・天王寺
91		男	神職	小袖	無地	無地			堺・住吉・天王寺
92		男	祭見物	小袖	文様散点	文様散点	三つ並び金輪	笠	堺・住吉・天王寺
93		男	祭見物	小袖	無地	無地	星梅鉢	笠	堺・住吉・天王寺
94		男	祭見物	小袖	文様散点	文様散点	三つ盛井桁	笠	堺・住吉・天王寺
95		男	祭見物	小袖・羽織	無地	無地	五枚笹	笠	堺・住吉・天王寺
96		男	祭見物	小袖・袴なし羽織	無地	文様散点			堺・住吉・天王寺
97		男	剣鉾	小袖	地文様	無地			堺・住吉・天王寺
98		男	剣鉾	小袖・法被	無地	無地			堺・住吉・天王寺
99		女	町人	小袖・被衣	地文様	無地		扇子	船場・上町
100		女	町人	小袖・被衣	肩裾	無地			船場・上町
101		子供	町人	小袖	肩裾	無地		棒	船場・上町
102		子供	印地打ち	小袖	縞・段	縞・段		棒	船場・上町
103		子供	印地打ち	小袖	地文様	地文様		棒	船場・上町
104		子供	印地打ち	小袖	縞・段	縞・段		棒	船場・上町
105		子供	印地打ち	小袖	肩裾	肩裾		棒	船場・上町
106		子供	印地打ち	小袖	文様散点	文様散点	四つ割菱 踊り桐	棒	船場・上町
107		子供	町人	小袖	文様散点	文様散点			船場・上町
108		子供	奉納	小袖	肩裾	肩裾			船場・上町

109	子供	町人	小袖	文様散点 無地		下り藤	荷物	船場・上町
110	男	町人	小袖・袴	無地			荷物	船場・上町
111	子供	町人	小袖・袴	無地	縞・段 無地			船場・上町
112	子供	町人	小袖	無地				船場・上町
113	子供	町人	小袖	文様散点				船場・上町
114	子供	町人	小袖	縞・段		亀甲繫		船場・上町
115	子供	印地打ち	小袖	地文様			棒	船場・上町
116	子供	春駒	小袖	地文様				船場・上町
117	女	町人	小袖	肩裾	肩裾		刀	船場・上町
118	男	武家	小袖・袖なし羽織	無地			荷物	船場・上町
119	女	町人	小袖	無地				船場・上町
120	女	町人	小袖・被衣	無地				船場・上町
121	女	町人	小袖・被衣	文様散点	縞・段 地文様	亀甲繫	扇子	船場・上町
122	男	鉦叩き	小袖・直綴	無地			鉦・撞木・笠	船場・上町
123	男	武家	小袖・羽織・袴	無地	無地		刀	船場・上町
124	女	町人	小袖・袖なし羽織	無地	縞・段		魚	船場・上町
125	女	町人	小袖	肩裾				船場・上町
126	女	町人	小袖	文様散点				船場・上町
127	男	町人	小袖	肩裾		笹 梅鉢	荷物	船場・上町
128	女	町人	小袖	地文様			笠	船場・上町
129	女	町人	小袖	縞・段			笠	船場・上町
130	男	振り売り	小袖	文様散点		瓢箪	天秤棒・笠 竿秤・銭束	船場・上町
131	男	両替商	小袖・袴	地文様	無地		笠	船場・上町
132	男	旅人	小袖	文様散点		三つ盛亀甲	笠・刀	船場・上町
133	男	旅人	小袖	無地		輪違	笠・蓑・荷物・杖	船場・上町
134	女	町人	小袖	文様散点			笠	船場・上町
135	男	旅人	小袖	無地		片輪車	笠・刀 笠・荷物	船場・上町
136	男	旅人	小袖	文様散点	肩裾		笠・刀・釣竿・荷物	船場・上町
137	男	武家	小袖・羽織	無地			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
138	男	町人	小袖	縞・段			笠・刀・釣竿・荷物	船場・上町
139	女	うどん屋	小袖	無地			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
140	子供	町人	裸	無地			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
141	女	水汲み	小袖	無地			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
142	女	水汲み	小袖・前掛け	地文様			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
143	男	船乗り	小袖	無地			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
144	男	船乗り	小袖	無地			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町
145	女	町人	小袖	地文様			笹 笹・蓑・荷物	船場・上町

淀川・八軒家  
淀川・八軒家  
淀川・八軒家



146		男	船乗り	小袖	地・文様				淀川・八軒家
147		男	漁師	小袖	肩裾				淀川・八軒家
148	2	男	町人	褌	裸				淀川・八軒家
149		女	町人	小袖	褌・段				淀川・八軒家
150		女	神職	白張	無地				淀川・八軒家
151		男	アハラヤ	狩衣・指貫	地・文様				
152		子供	神職	白張	無地		無地	花笠	
153		男	祭行列	小袖	無地		石持	大団扇	堺・住吉・天王寺
154		男	祭行列	小袖	無地		輪違	大団扇	堺・住吉・天王寺
155		男	参詣	小袖	文様散点			大団扇	堺・住吉・天王寺
156		女	参詣	小袖	無地				堺・住吉・天王寺
157		男	参詣	羽織	無地	文様散点	石持		堺・住吉・天王寺
158		男	参詣	小袖	無地				堺・住吉・天王寺
159		男	参詣	小袖	無地		笹竜胆		堺・住吉・天王寺
160		男	参詣	小袖	文様散点				堺・住吉・天王寺
161		女	参詣	小袖	肩裾				堺・住吉・天王寺
162		男	参詣	小袖	文様散点				堺・住吉・天王寺
163		子供	参詣	小袖・袴	文様散点			刀	堺・住吉・天王寺
164		男	参詣	小袖・羽織・袴	無地	文様散点			堺・住吉・天王寺
165		女	参詣	小袖・被衣	文様散点	地・文様	肩裾	刀	堺・住吉・天王寺
166	3	男	参詣	小袖	肩裾				堺・住吉・天王寺
167		男	参詣	羽織・袴	無地	文様散点	無地		堺・住吉・天王寺
168		女	祭行列	小袖	肩裾				堺・住吉・天王寺
169		女	祭行列	小袖	文様散点			扇子	堺・住吉・天王寺
170		子供	稚児	小袖	無地		楓	太刀	堺・住吉・天王寺
171		男	神職	白張	無地		梅鉢に三つ引阿		堺・住吉・天王寺
172		男	祭行列	小袖・法被	地・文様	無地		笠	堺・住吉・天王寺
173		女	八乙女	小袖・被衣	褌・段	無地			堺・住吉・天王寺
174		男	祭行列	小袖・羽織	無地	無地		笠	堺・住吉・天王寺
175		男	神職	狩衣・指貫	文様散点				堺・住吉・天王寺
176		男	祭行列	小袖	文様散点		無地		堺・住吉・天王寺
177		男	祭行列	小袖	無地		楓	笠	堺・住吉・天王寺
178		男	祭行列	小袖・袖なし羽織	無地		輪車		堺・住吉・天王寺
179		男	祭行列	小袖	無地	無地		大団扇・笠	堺・住吉・天王寺
180		男	神職	白張	無地				堺・住吉・天王寺
181		男	祭行列	小袖・法被	無地				堺・住吉・天王寺
182		男	祭行列	小袖・法被	無地	肩裾		大団扇・笠	堺・住吉・天王寺



219		町人	無地	無地	無地	荷物	船場・上町
220	男	町人	無地			荷物	船場・上町
221	男	乗馬	裸			柄杓	船場・上町
222	男	乗馬	文様散点	輪違			船場・上町
223	女	旅籠	無地				淀川・八軒家
224	男	旅籠	無地	文様散点	輪貫	笠・刀	淀川・八軒家
225	子供	町人	無地				淀川・八軒家
226	女	町人	無地			笠	淀川・八軒家
227	男	武家	文様散点	無地	蛇の目	数珠・刀	淀川・八軒家
228	女	町人	肩裾				淀川・八軒家
229	子供	町人	文様散点				淀川・八軒家
230	男	町人	地文様	地文様		刀	淀川・八軒家
231	男	武家	無地		桜		淀川・八軒家
232	男	町人	文様散点	無地			淀川・八軒家
233	女	町人	無地	無地			淀川・八軒家
234	男	船乗り	無地			笠	淀川・八軒家
235	男	船乗り	文様散点		亀甲繫		淀川・八軒家
236	男	船乗り	地文様		団子		淀川・八軒家
237	男	船乗り	文様散点		源氏車		淀川・八軒家
238	男	船乗り	無地				淀川・八軒家
239	男	船乗り	文様散点			笠	淀川・八軒家
240	男	船乗り	無地				淀川・八軒家
241	男	船客	無地				淀川・八軒家
242	男	船客	無地				淀川・八軒家
243	子供	船客	地文様				淀川・八軒家
244	子供	船客	地文様				淀川・八軒家
245	女	船客	地文様			笠	淀川・八軒家
246	男	船客	無地				淀川・八軒家
247	男	船乗り	無地				淀川・八軒家
248	女	参詣	文様散点		星梅鉢	笠	堺・住吉・天王寺
249	女	参詣	編・段			笠	堺・住吉・天王寺
250	男	祭行列	編・段	編・段		団扇・笠・刀	堺・住吉・天王寺
251	女	祭行列	無地		亀甲繫	扇子・太刀	堺・住吉・天王寺
252	女	祭行列	編・段	文様散点	楓	団扇・笠・刀	堺・住吉・天王寺
253	男	祭行列	文様散点	無地	蛇の目	刀	堺・住吉・天王寺
254	子供	祭行列	編・段			傘・笠・刀	堺・住吉・天王寺
255	女	祭行列	地文様	文様散点	棕櫚		堺・住吉・天王寺



256		祭行列	小袖・法被	文様散点	文様散点	無地	星梅鉢・蛇の目	大団扇・笠・刀	堺・住吉・天王寺 堺・住吉・天王寺
257		祭行列	小袖	地文様	無地		星梅鉢	刀・柄杓	堺・住吉・天王寺
258	男	官司	狩衣・指貫	文様散点				刀	堺・住吉・天王寺
259	男	神職	白張	無地				刀	堺・住吉・天王寺
260	男	祭行列	小袖	縞・段			不明	大団扇・笠	堺・住吉・天王寺
261	男	祭行列	小袖	文様散点	肩裾		輪遣		堺・住吉・天王寺
262	女	祭行列	小袖・法被	文様散点					堺・住吉・天王寺
263	男	祭見物	小袖	縞・段					堺・住吉・天王寺
264	男	祭見物	小袖	不明				刀	堺・住吉・天王寺
265	女	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
266	女	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
267	女	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
268	男	祭見物	小袖	文様散点			片輪車	笠	堺・住吉・天王寺
269	男	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
270	男	祭見物	小袖	地文様				笠・扇子	堺・住吉・天王寺
271	男	祭見物	小袖	文様散点			星梅鉢	笠・扇子	堺・住吉・天王寺
272	女	祭見物	小袖	縞・段				笠	堺・住吉・天王寺
273	女	祭見物	小袖	肩裾				笠	堺・住吉・天王寺
274	女	祭見物	小袖・被衣	文様散点	縞・段		雁金	笠	堺・住吉・天王寺
275	女	祭見物	小袖	文様散点			三つ盛亀甲	笠	堺・住吉・天王寺
276	女	町人	小袖	文様散点			星梅鉢	笠	堺・住吉・天王寺
277	子供	町人	小袖・羽織	無地	肩裾				堺・住吉・天王寺
278	女	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
279	男	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
280	男	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
281	男	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
282	男	祭見物	小袖	縞・段			輪遣	笠	堺・住吉・天王寺
283	男	祭見物	小袖	文様散点				笠	堺・住吉・天王寺
284	男	祭見物	小袖	肩裾				笠	堺・住吉・天王寺
285	女	祭見物	小袖・羽織・袴	無地	文様散点	無地	星梅鉢	笠	堺・住吉・天王寺
286	女	祭見物	小袖	無地	縞・段			笠	堺・住吉・天王寺
287	女	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
288	女	祭見物	小袖	文様散点			蛇の目	笠	堺・住吉・天王寺
289	女	祭見物	小袖・被衣	無地				笠	堺・住吉・天王寺
290	女	祭見物	小袖	無地	地文様			笠	堺・住吉・天王寺
291	女	祭見物	小袖	無地				笠	堺・住吉・天王寺
292	子供	祭見物	小袖	地文様				笠	堺・住吉・天王寺

293		祭見物	小袖	無地	大柄文様		筥	堺・住吉・天王寺
294	女	武家	小袖	肩裾		星梅鉢	筥・刀	船場・上町
295	男	町人	小袖・被衣	無地	枝垂柳		荷物	船場・上町
296	女	町人	小袖	地文様				船場・上町
297	男	町人	小袖	文様散点		丸に蛇の目・星梅鉢	刀	船場・上町
298	男	町人	小袖	文様散点		源氏車		船場・上町
299	子供	町人	小袖	文様散点				船場・上町
300	子供	町人	小袖	肩裾				船場・上町
301	女	町人	小袖	地文様				船場・上町
302	女	町人	小袖	肩裾				船場・上町
303	男	武家	小袖	大柄文様			槍・刀	大坂城
304	男	武家	小袖	無地	文様散点	不明	槍・刀	大坂城
305	男	武家	小袖・袖なし羽織・袴	無地	無地	三つ盛亀甲	刀	大坂城
306	子供	武家	小袖・袴	肩裾			刀	大坂城
307	男	武家	小袖	文様散点			刀	大坂城
308	男	武家	小袖・袴	地文様		梅鉢	刀	大坂城
309	男	武家	小袖	文様散点	文様散点	星梅鉢	刀	大坂城
310	男	武家	小袖・袖なし羽織	肩裾		片輪車	刀	大坂城
311	子供	武家	小袖・袖なし羽織・袴	地文様	文様散点	棕櫚	薙刀・刀	大坂城
312	男	武家	小袖・羽織・袴	無地	肩裾		刀	大坂城
313	男	武家	小袖・袖なし羽織・袴	無地	無地	星梅鉢	刀	大坂城
314	女	船客	小袖	文様散点			筥	大坂城
315	男	町人	小袖	肩裾			荷物	淀川・八軒家
316	男	船客	小袖	地文様		不明	筥・刀	淀川・八軒家
317	女	町人	小袖	無地				淀川・八軒家
318	男	町人	小袖	文様散点		叢		淀川・八軒家
319	男	船客	小袖	文様散点		桜		淀川・八軒家
320	女	町人	小袖	文様散点		三つ引 両	筥・刀	淀川・八軒家
321	男	町人	小袖	無地			荷物	淀川・八軒家
322	男	船乗り	小袖	無地				淀川・八軒家
323	男	船客	小袖	文様散点		星梅鉢・二筋格子	荷物・刀	淀川・八軒家
324	男	船乗り	小袖	文様散点		星梅鉢	筥	淀川・八軒家
325	女	町人	小袖	地文様				淀川・八軒家
326	女	町人	小袖	大柄文様		下り藤	魚	淀川・八軒家
327	男	町人	小袖	大柄文様		陣幕	刀・扇子	淀川・八軒家
328	男	武家	小袖	文様散点		叢		淀川・八軒家
329	男	町人	小袖・羽織	文様散点	文様散点	不明・不明	筥	淀川・八軒家

330	4	子供	町人	小袖	無地				淀川・八軒家
331		男	町人	小袖	肩裾				堺・住吉・天王寺
332		男	町人	小袖	無地				堺・住吉・天王寺
333		男	町人	小袖	文様散点				堺・住吉・天王寺
334		女	町人	小袖	文様散点	井桁		簗・荷物	堺・住吉・天王寺
335		女	町人	小袖・被衣	肩裾	片輪車			堺・住吉・天王寺
336		女	町人	小袖・被衣	文様散点	地文様			堺・住吉・天王寺
337		女	町人	小袖	文様散点	縮・段	星梅鉢・源氏車	傘	堺・住吉・天王寺
338		女	町人	小袖	文様散点	縮・段	亀甲繁	簗	堺・住吉・天王寺
339		女	町人	小袖	文様散点	縮・段	星梅鉢	簗	堺・住吉・天王寺
340		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
341		子供	町人	小袖・袖なし羽織	縮・段	無地		簗	大坂城
342		子供	町人	小袖・袖なし羽織	縮・段	無地		簗	大坂城
343		子供	町人	小袖・袖なし羽織	縮・段	無地		簗	大坂城
344		子供	町人	小袖・羽織・袴	無地	縮・段		簗	大坂城
345		男	町人	小袖・羽織・袴	無地	縮・段		簗	大坂城
346		男	町人	小袖・袴	文様散点	縮・段	輪違・菖蒲草	簗	大坂城
347		子供	町人	小袖・袖なし羽織・袴	無地	縮・段		簗	大坂城
348	5	男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
349		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
350		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
351		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
352		女	町人	小袖・袖なし羽織・袴	文様散点	縮・段		簗	大坂城
353		女	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
354		女	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
355		男	町人	小袖・羽織・袴	無地	縮・段		簗	大坂城
356		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
357		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
358		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
359		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
360		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
361		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
362		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
363		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
364		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
365		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城
366		男	町人	小袖	文様散点	縮・段		簗	大坂城

367	5	男	武家	小袖・袖なし羽織	文様散点	大柄文様	下り藤 三つ盛亀甲 井桁	笠	淀川・八軒家 淀川・八軒家 淀川・八軒家 大坂城 大坂城		
368		男	武家	小袖	文様散点	無地		刀		大坂城	
369		男	町人	小袖	文様散点			荷物			大坂城
370		男	武家	小袖・羽織・袴	無地			大坂城			
371		女	町人	小袖	肩裾						
372	6	女	町人	小袖	地文様	地文様	南天	大坂城	大坂城		
373		女	町人	小袖	無地			大坂城			
374		女	町人	小袖	地文様			大坂城			
375		女	町人	小袖	地文様			大坂城			
376		女	町人	小袖	肩裾			大坂城			
377		女	町人	小袖	地文様			大坂城			
378		女	町人	小袖・被衣	肩裾			大坂城			
379		女	町人	小袖・被衣	地文様			大坂城			
380		男	武家	小袖	地文様			大坂城			
381		男	武家	小袖	縮・段			大坂城			
382	6	男	武家	小袖	文様散点	縮・段 文様散点	星梅鉢 鳳凰	刀	大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城		
383		男	武家	小袖	文様散点			大坂城			
384		男	武家	小袖	文様散点			大坂城			
385		子供	町人	小袖・肩衣・袴	地文様			大坂城			
386		男	武家	小袖	地文様			大坂城			
387		男	武家	小袖・肩衣・袴	地文様			大坂城			
388		男	武家	小袖	大柄文様			大坂城			
389		男	武家	小袖・肩衣・袴	無地			大坂城			
390		男	武家	小袖・十徳	無地			大坂城			
391		男	説教師	小袖・袴	地文様			大坂城			
392	6	男	武家	小袖・袴	地文様	無地	組結鷹羽	盆 (匏)	大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城 大坂城		
393		男	武家	小袖・袖なし羽織・袴	無地			盆・数珠		大坂城	
394		男	武家	小袖・肩衣・袴	縮・段			刀			大坂城
395		男	武家	小袖・袴	無地			刀			
396		男	武家	小袖・肩衣・袴	地文様			刀		大坂城	
397		女	町人	小袖	地文様			刀			大坂城
398		男	武家	小袖・肩衣・袴	肩裾			大坂城			
399		男	武家	小袖・肩衣・袴	地文様			大坂城			
400		男	町人	小袖	地文様			大坂城			
401		男	町人	小袖	文様散点			大坂城			
402	6	男	町人	小袖	文様散点	地文様	輪造・片輪車	荷物	大坂城		
403		男	武家	小袖・羽織	地文様			大坂城			



[illegible]

441	7	男	鳥刺	小袖	文様散点	文様散点	輪車	竿・笠	京坂間
442		男	参詣	小袖・羽織	無地	文様散点	輪車	笠・刀	京坂間
443		子供	町人	小袖	文様散点	無地	雲	笠・刀・荷物	京坂間
444		男	武家	小袖	地文様	無地	菖蒲草	雄刀・刀	淀川・八軒家
445		男	武家	小袖	無地	無地		笠・刀	淀川・八軒家
446		男	武家	羽織・袴	地文様	肩裾		笠・荷物	淀川・八軒家
447		男	町人	小袖	文様散点	文様散点	輪違	笠・扇子・刀	淀川・八軒家
448		男	町人	小袖	無地				淀川・八軒家
449		男	船乗り	小袖	無地				淀川・八軒家
450		女	町人	小袖	文様散点		輪違	笠・荷物	京坂間
451		男	町人	小袖	無地			笠・刀	京坂間
452		男	武家	小袖・羽織	無地	無地		笠・刀	京坂間
453		男	武家	小袖	地文様				京坂間
454		男	巡礼	小袖	地文様				京坂間
455		男	柴舟	小袖	無地			笠・荷物	京坂間
456		男	巡礼	小袖・笄摺	無地			笠・杖・荷物	京坂間
457		男	水汲み	小袖	文様散点		井桁	桶・天秤棒	京坂間
458	8	男	巡礼	小袖・笄摺	無地			笠・杖・荷物	京坂間
459		男	参詣	小袖	地文様	地文様		笠・刀	京坂間
460		男	参詣	小袖・羽織	縞・段			笠・刀	京坂間
461		男	神職	白張	無地			笠・刀	京坂間
462		女	参詣	小袖	無地			御幣	京坂間
463		男	参詣	小袖	文様散点		櫃子	笠・刀・荷物	京坂間
464		男	神職	小袖	無地			刀	京坂間
465		男	神職	白張	無地				京坂間
466		男	参詣	小袖・羽織・袴	無地	文様散点	木瓜	笠	京坂間
467		女	参詣	小袖	文様散点	無地	花卉	笠	京坂間
468		男	釣り	小袖	地文様			笠・釣竿・刀	京坂間
469		男	巡礼	小袖・笄摺	地文様			笠・杖・荷物	京坂間
470		女	参詣	小袖	肩裾			笠	京坂間
471		女	参詣	小袖	縞・段			笠	京坂間
472		女	参詣	小袖	無地		井桁	笠	京坂間
473		女	町人	小袖	文様散点			荷物	京坂間
474		男	巡礼	小袖・笄摺	地文様			笠・杖・荷物	京坂間
475		子供	町人	小袖	地文様				京坂間
476		男	鷹狩	小袖・袴	文様散点	無地	不明	刀	京坂間
477		男	鷹狩	小袖・袖なし羽織・袴	地文様	文様散点	石持	刀	京坂間

478		鷹狩	小袖	文様散点 肩裾		花卉	笠 荷物	京坂間
479		町人	小袖	大柄文様		枝垂柳	柄杓・茶碗	京坂間
480		一服一銭	小袖	地文様			笠・刀	京坂間
481		町人	小袖	無地		雁金	笠・荷物	淀川・八軒家
482		巡礼	小袖	文様散点 肩裾			笠・刀	京坂間
483		鷹狩	小袖	無地			笠・刀・杖	京坂間
484		鷹狩	小袖	無地			笠	京坂間
485	8	鷹狩	小袖・袖なし羽織・袴	無地			笠	京坂間
486		鷹狩	法被・袴	無地			笠	京坂間
487		鷹狩	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
488		鷹狩	小袖	文様散点		丁子	笠	淀川・八軒家
489	子供	船客	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
490	男	船客	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
491	男	船客	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
492	男	船客	小袖	無地			笠	淀川・八軒家
493	男	船客	小袖	無地			笠	淀川・八軒家